



北欧における大学機関リポジリ の状況及び広島大学学術情報リ ポジトリについて



広島大学図書館学術情報整備グループ
学術情報リポジトリ担当
上田 大輔

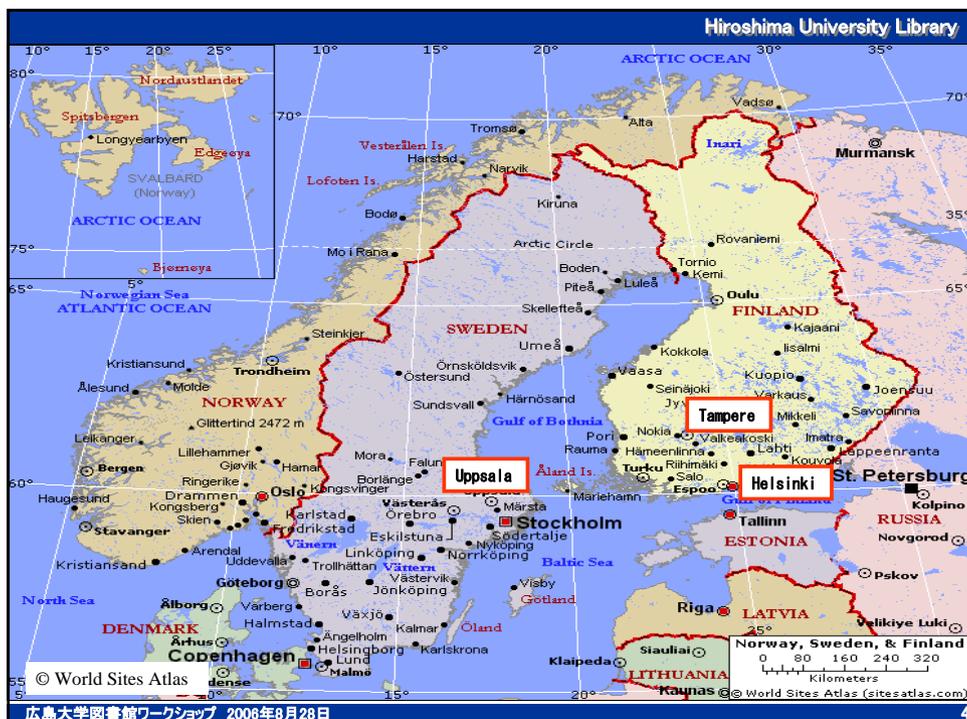
2006.8.28 広島大学図書館ワークショップ

本日は話すこと

- 概要
- ヘルシンキ大学図書館(フィンランド)
- タンペレ大学図書館(フィンランド)
- ウプサラ大学図書館(スウェーデン)
- 広島大学学術情報リポジトリ

概要

- 訪問大学
フィンランド : ヘルシンキ大学・タンペレ大学
スウェーデン : ウプサラ大学
- 訪問の目的
北欧における機関リポジトリ構築・構想の現状を知る。
得られた知見を広島大学学術情報リポジトリに活用する。



ヘルシンキ大学図書館

ーフィンランドにおける機関リポジリー

ヘルシンキ大学図書館とは？

ヘルシンキ大学の図書館であり、かつフィンランドの国立図書館でもある。

役割

- ・ ヘルシンキ大学の学生・研究者へのサービス。
- ・ 図書館システムやコンソーシアム・各種プロジェクトのまとめ役。
- ・ フィンランドの国立納本図書館として全国民及び国内の図書館へのサービス。

フィンランドにおけるOA/IR プロジェクト

目標

オープンアクセスや機関リポジトリなどによる科学コミュニケーションの代替方法の促進。

OA-JESプロジェクト

2006年4月にスタートしたオープンアクセス推進のためのプロジェクト

- 1) 機関リポジトリ構築支援
- 2) オープンアクセスの広報
- 3) オープンアクセスジャーナルのためのプラットフォームの提供

フィンランドにおける機関リポジトリ

状況

- ・フィンランドでは機関リポジトリが進んでるとはいえない。
→ ROARの登録数は4機関(2006年8月22日現在)
- ・多くの大学で学位論文の電子化サービスは行われている



機関リポジトリの構築を進めるためにNational Library of Finland
としてどんなサポートをすればよいのか？

National Library of Finland による サポート

1. 技術的サポート(サーバ構築等)
2. サービスプロバイダとしての役割
3. デジタル資料の長期保存のサポート
4. 機関リポジトリの継続性の検討

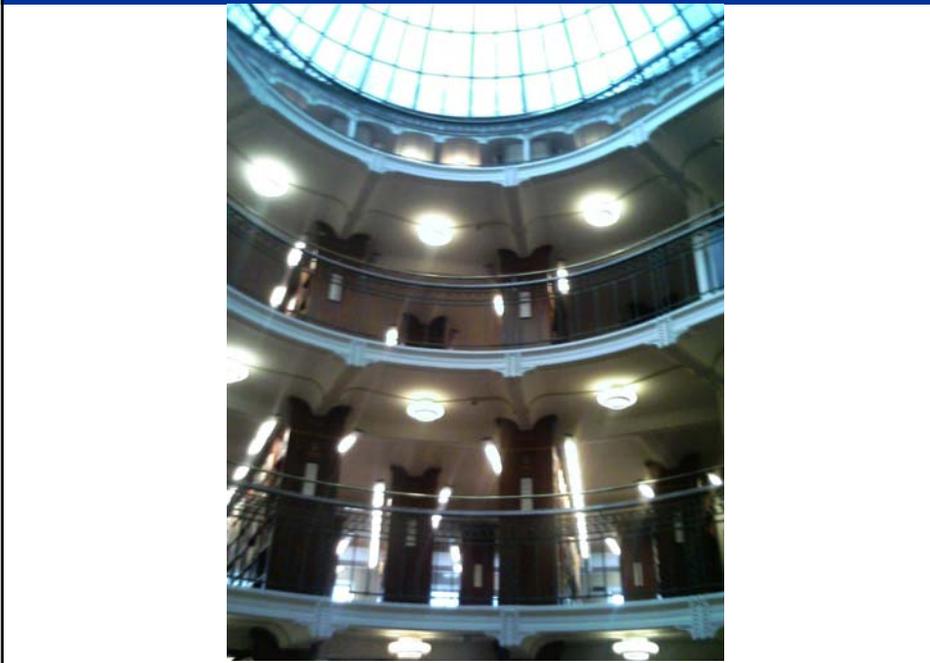
3と4は日本でも検討する必要があるが・・・

ヘルシンキ大学の機関リポジトリ

- 生命科学分野の図書館でDspaceを運用
<http://www.tiedekirjasto.helshinki.fi:70/>
- 大学全体のIR運用には至らず
様々な学部のそれぞれの状況
現在大学全体での運用を検討中
- 学位論文の電子化サービスは実施済み



広島大学図書館ワークショップ 2006年8月28日



広島大学図書館ワークショップ 2006年8月28日



タンペレ大学図書館

— 継続的な業務体制を目指して —

タンペレ大学図書館とは？

- 中央図書館・人文科学系図書館・医学系図書館の3館で構成
- 6つの学部、15,000人の学生、1,100人の研究者がサービス対象



ほぼ広島大学図書館と同規模の図書館

(やや小規模であるが)

誰でも登録可能な機関リポジトリ？

Peter SuberさんのOpen Access Newsによると

タンペレ大学のリポジトリは、タンペレ大学の所属でない研究者でもリポジトリへの登録が可能である。

http://www.earlham.edu/~peters/fos/2005_11_06_fosblogarchive.html

タンペレ大学図書館のAnneli Ahtolaさんの話では・・・

これはタンペレ大学出版会から出版する原稿の募集であって、機関リポジトリのコンテンツ登録ではない。

では、タンペレ大学に機関リポジトリは存在しないのか？

存在しないらしい。だが、タンペレ大学の学位論文とタンペレ大学出版会発行の図書等はWeb上で無料で公開されている。

タンペレ大学図書館の電子化事業

- 学位論文データベース (e-thesis)

<http://acta.uta.fi/english/>

タンペレ大学の学位論文を収集し、冊子製本とwebでの公開(許諾が取れれば)を行っている。

- タンペレ大学出版会 (TamPub)

<http://tampub.uta.fi/>

学内構成員を中心にWorking Paper, 書籍等の出版を行っている。
冊子販売の他に、著者の許可があれば、電子版をwebで無料公開している。

学位論文の収集方法

- 著者からPDFをファイルでもらう
- 出版社への許諾確認は著者が行う。
- 図書館(出版会)は出版のみに責任を持つ

著者がPDF作成と出版社の許諾まで行う？

それでは、学位論文はどれだけ集まるの？

 約90%

なぜこんなに論文が集まるのか？

図書館が学位論文の出版費用を負担

- ・提出のあった学位論文を3部製本
(1論文につき4EUR程度の負担)
- ・学生の出版費用は無料

見返りがないと資料は自然には集まってこない!!

自ら集めようとするには相当な労力と費用がかかる。それに比べると安いのでは・・・とのことでした。

機関リポジトリの構想

e-thesis, TamPubを統合し、雑誌論文・テキストブック・プロジェクト報告書等を追加した機関リポジトリの構築

しかし、現状では

リポジトリ事業の**継続性**に問題あり (人員・費用など)

そのため

図書館だけでなく大学全体での共同事業に。

学位論文収集の戦略を踏襲し、効率的な資料収集を。

しかし、著者のインセンティブはまだ見つかっていない……



広島大学図書館ワークショップ 2006年8月28日



広島大学図書館ワークショップ 2006年8月28日

ウプサラ大学図書館

— 機関リポジトリと電子出版の融合 —

ウプサラ大学図書館とは？

- スカンジナビア最古の図書館
- 中央図書館と18の専門図書館
- 9つの学部・4万人の学生・3,800人の研究者がサービス対象



日本では、大阪大学・京都大学に匹敵するか？

ウプサラ大学のリポジトリ

DiVA (Digitala Vetenskapliga Arkivet in Swedish)

<http://publications.uu.se/>

ウプサラ大学図書館の電子出版部門が開発を行った
電子出版とリポジトリを兼ね備えたシステム。

2006年2月現在で、スウェーデン、デンマーク、ノル
ウェーを含む15の大学がDiVAプロジェクトに参加して
いる。

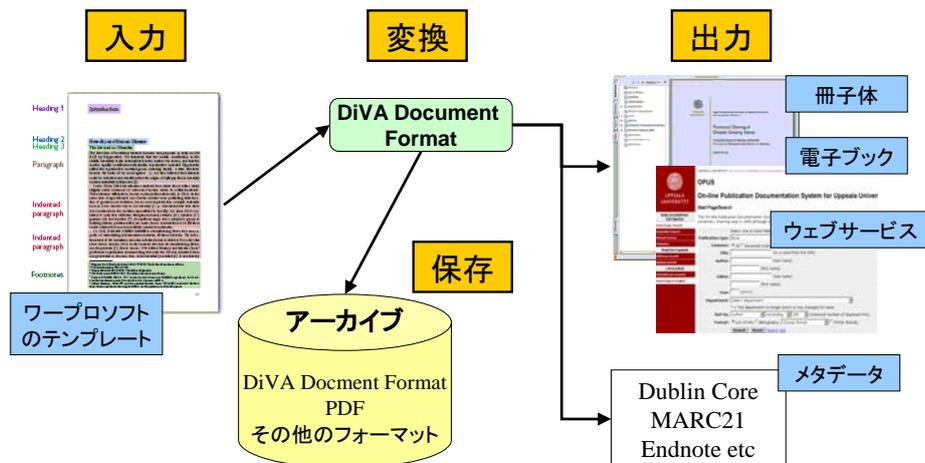
DiVAの特徴

- 1) 出版機能
- 2) アクセスの保障と長期保存
- 3) ポータル機能

出版機能

- 1) 冊子と電子の両方の出版に対応
- 2) 学位論文・研究報告などの出版が中心
(ポストプリントなどの登録機能もあり)
- 3) データの再利用による効率性
入力データ→変換→様々なフォーマットで出力
再利用の基礎となるのはDiVA Document Format (DDF)

出版フロー



Diva Document Format (DDF)

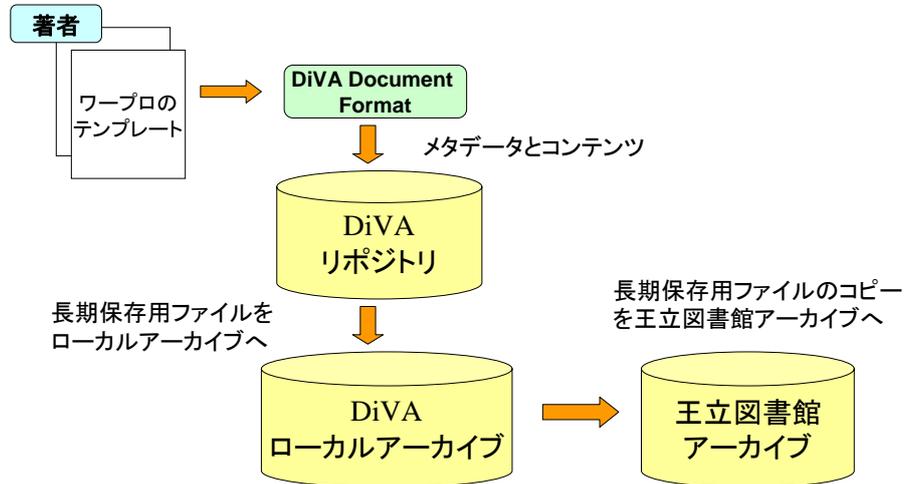
- DiVAで使われる記述フォーマット
標準のデータ形式としてXMLを採用
書誌メタデータの他にフルテキストメタデータ
- 約100項目もあるリッチなメタデータ
- DDFからダブリンコアメタデータへの変換やフルテキストPDFファイルの作成が可能

DDFの詳細 <http://epc.ub.uu.se/ddf/index.html>

アクセスの保障と長期保存

- 1) **永続的な識別子**
各レコードにURN:NBN識別子の付与。
王立図書館の解決サービスによるアクセスの保障。
(URN:NBN識別子→URLの変換)
- 2) **ローカルアーカイブ**
自分のところで長期保存用のファイルを保管
- 3) **セントラルアーカイブ**
王立図書館のアーカイブにも同じファイルを送って万が一に備える
- 4) **フォーマット**
長期保存用のフォーマットはテキストベースのXML

DiVAアーカイブフロー



DiVA Portal

DiVAプロジェクトに参加している機関のコンテンツを横断的に検索できる



<http://www.diva-portal.org/>



広島大学図書館ワークショップ 2008年8月28日



広島大学図書館ワークショップ 2008年8月28日





広島大学学術情報リポジトリ — 立ち上げから今後の課題まで —

広島大学学術情報リポジトリの概要

<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/portal/>



試験公開 2006年4月
ソフトウェア E-Repository (CMS)

登録件数 (2006.8現在)

- ・学術雑誌論文(471)
- ・学内刊行物(紀要等)(996)
- ・学位論文(32)
- ・修士論文/卒業論文(3)
- ・プレプリント(9)
- ・会議録/講演資料(53)
- ・プレゼンテーション資料(12)
- ・科研費報告書(5)
- ・テクニカルレポート/ワーキングペーパー(1)
- ・単行書(2)
- ・単行書の章(7)
- ・電子教材(14)
- ・コレクション-教科書(5596)

機関リポジトリ立ち上げの動き

2004.11	<p>広島大学における学術情報のアーカイブ化と発信に関するWG の発足</p> <p>大学全体の学術情報の効率的な利用と発信のあり方を検討</p>
2005.4	<p>電子図書館整備・構築委員会の設置</p> <p>図書館内で機関リポジトリの設置を検討</p>
2005.5	<p>WG報告書</p> <p>広島大学として機関リポジトリを設置する。</p>

体制の整備

電子図書館構築・整備委員会 (2005.4～)

図書館職員7名

コンテンツ収集班・システム調達班・合意形成班



コンテンツ収集専任チーム (2005.12～2006.3)

中央図書館2名＋各分館1名の合計5名

研究者に代わってコンテンツを探し・集め・登録する



機関リポジトリ専任主担当の設置 (2006.4～)

主査1名＋グループ員1名

学内合意形成

大学としての認知

2005.7 大学全体の意思決定機関である「企画会議」で了承。

研究者への説明

1. 学内諸会議で発言
2. 各研究科長を訪問し、個別に協力依頼
3. 部局別説明会
4. 地区別説明会(キャンパスごと)

➡ 説明会は約30回、参加人数は約500人

コンテンツ収集

方法

- ・パンフレットの配布
- ・メールによる営業
- ・研究室を訪問して個別交渉
- ・紀要編集委員会に許諾交渉

成果

- ・学術雑誌論文・紀要が中心
- ・その他に会議録・学位論文・科研費報告書など

コンテンツ収集の経験から

雑誌論文の著者原稿と別刷

海外出版社の多くが許諾しているのは**著者原稿**。

研究者が自分で保存しているのはほとんど**別刷**。

→最初の説明を徹底するか、業績リストを予め調べ、この版なら登録できるのでくださいと言う方が親切。
登録不可と返却すると、研究者の温度も下がる。

国内学会や出版社へのコンタクト

セルフアーカイブの方針が決まっていないところが多い。

個別にコンタクトをすれば、認めてくれるところも多い。

広島大学の個別交渉状況(2006年8月現在)

国内97機関 (可 52 否 3 保留 16 未回答 26)

今後の課題

- 1) 継続的・効率的なコンテンツの収集
 - ・学内出版物(紀要等)の電子化推進
 - ・学位論文・科研報告書の電子ファイル提出の制度化
 - ・業績データベースとの連携
- 2) インターフェース
 - ・散乱しているデジタルコンテンツの器として
 - ・主題ポータルや電子出版
 - ・研究成果のショウウィンドウ
- 3) 収集方針の再検討
 - 収集するコンテンツの優先順位は？
- 4) 長期保存
 - 全く検討していないが・・・